

1.1 -Conseil Economique Social et Environnemental (CESE) ～ 経済社会環境評議会 (CESE) ～



住所:	Palais Iéna, 9 place d'Iéna 75016 Paris
物件種別:	フランス共和政協議会
建築家:	オーギュスト・ペレ(1874～1954)
工期:	1937年～1946年

20世紀の代表的な建築家の一人オーギュスト・ペレの傑作。この建物は継続的に公的文化団体によって使用されてきました。CESEは1959年以来ここに置かれています。1933年、採石場として使用されていた傾斜の急な区画に位置するこの土地に公共事業博物館を建設するために、オーギュスト・ペレが選ばれました。ペレは明るくそびえたつような建物の建設を望んでいました。Le Palais d'Iénaにはオーギュスト・ペレが採り入れたすべての建築上の、技術的な革新が集約されています。ペレの他の多くの建築物と同様に、Avenue d'Iénaに面したファサードと柱廊は、礎盤の上に立てられ、屋上テラスを支える高さ13フィートの8本のコンクリートの柱で形成された外側に張り出した構造になっています。その形と外観はエジプトで見られるヤシの木群をイメージさせます。ペレの設計に特有の装飾要素は、トリスが広範囲に使用されていることです。V字の外縁によって、ファサードを損傷することなく雨水が流出されます。

円形広間

円形広間は二重フレームで構成されています。1つのフレームは先細りの柱で構成され、2つ目のフレームは頂上部にスクリーン壁が設置されています。全体は2つのドームによって屋根が作られています。一つは外側の、末端がランタンになっているコンクリートの骨組みから成るドームで、もう一つは内側の、放射状のリブから成るドームで、リブは建物の議場を覆うために使用されているガラススタイルの間に配置されています。

「多柱式」部屋



ペレは、自身の「君主の盾(sovèreign shield)」の論理を反映するためにこの様式(天井が柱によって支えられている部屋)を選びました。長さ60メートル、幅18メートルの、柱で支えられたホールは、建物の構造から独立していて、天井は配置された高さ20フィートに合わせて切断された6メートル間隔の溝付き柱によって支えられています。天井には、装飾効果を提供し、騒音を抑えるために設計されたコンクリートの梁が木材パネル(ライムオーク)に挿入されたボックスを形成しているのが見られます。

半円形建物

直径25メートルの半円形のアリーナは現在、本会議開催時に233名の議員を収容します。ホールは2つのドームで覆われています。一つは、ガラスブロックの間に配置された放射状リブから成り、優れた音響効果を提供し、柔らかい光が採り入れられています。もう一つのドームは、ランタンが頂上部に設置されています。換気はガラススタイルの間の穴によって行われます。



二重回転階段

柱で支えられたホールから、有名なハート型の階段によって上下の階に行くことができます。その型枠工事の完成は困難を極めました。階段手すりは、工芸家のレイモン・シュープ(1890年～1970年)によって作られたもので、装飾モチーフとして彼自身のイニシャルを用いています。

ウィルソン及びアルベール・ド・マンのウイング

建物は、2つのウイングで完成しました。ウィルソン・ウイングは、オーギュスト・ペレの教え子でローマ賞受賞者のポール・ビモン(1922年～1988年)によって、1960年から1962年の間に建てられました。西欧同盟の本部が置かれています。1005ウイングに建てられたアルベール・ド・マンは、建築家ジル・ブーシェ(1956年～)の設計によるものです。